

農 大

だより

令和8年3月1日発行
愛知県立農業大学校

〒444-0802 岡崎市美合町字並松1-2
Tel: 0564-51-1601 Fax: 0564-51-4831
E-mail noudai@pref.aichi.lg.jp
ホームページ: <https://www.pref.aichi.jp/soshiki/noudai/>

令和7(2025)年度版



海外派遣研修



CONTENTS

- 1 特集
海外派遣研修
あいち農林漁業スタートガイド「あいちから」の概要
- 2 専攻トピックス
- 3 トピックス
- 4 SNS 投稿 diary

愛知県立農業大学校
公式HP



Instagram

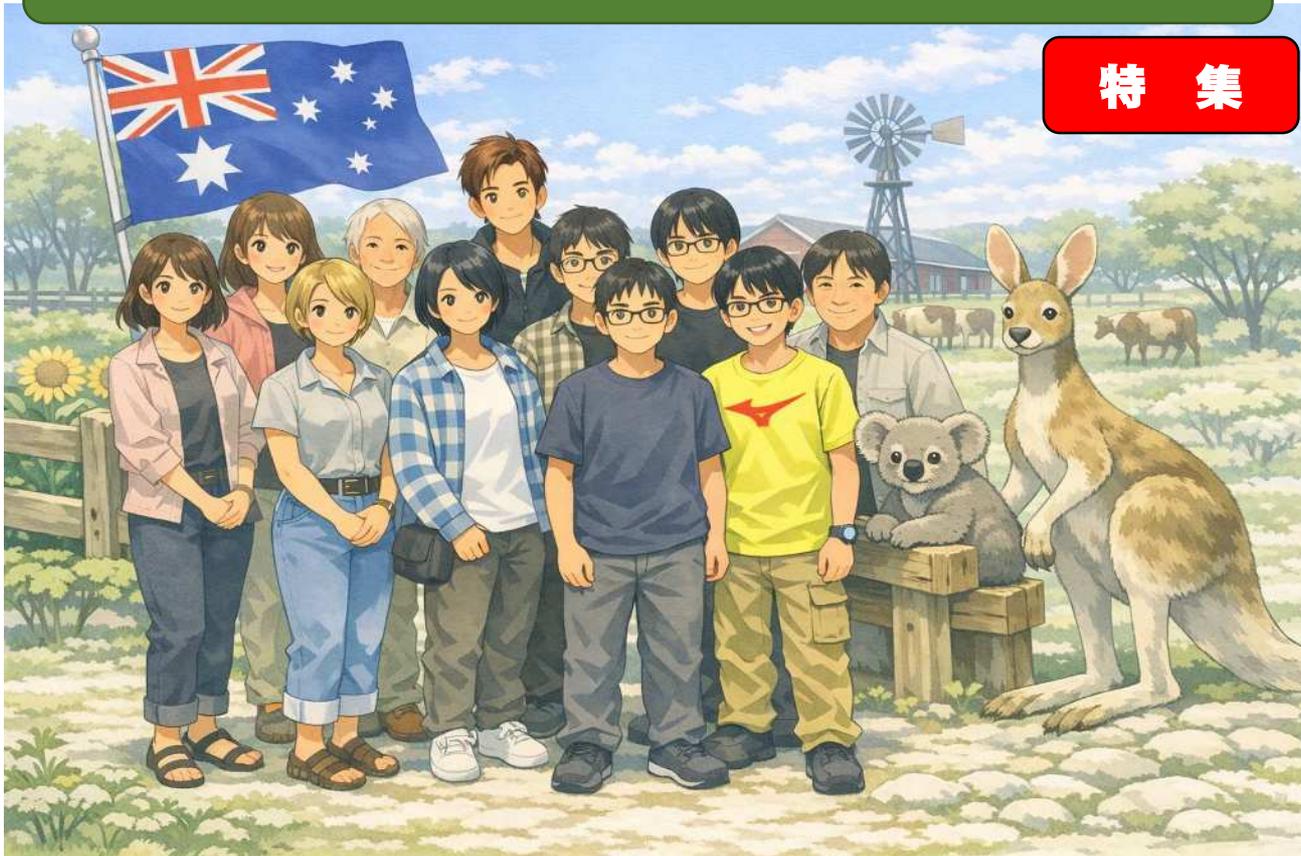


X (旧 Twitter)



海外派遣研修 in オーストラリア

特集



令和8年1月26日(月)から2月1日(日)までの6泊7日で令和7年度海外派遣研修を実施しました。学生達は真夏のオーストラリアで農業事情を学び、言葉の壁を乗り越えながら、ホストファミリーとの絆を深めることができました。往路途中にベトナムも訪れ、様々な国の文化も学ぶことができました。参加した2年生73名は、異なる文化や生活習慣に戸惑いつつも、日本では得られない文化や体験を享受できたことは一生の思い出になったと思います。卒業後もこの経験を活かしてくれることを期待しています。

【1月26日(月) 中部国際空港 → ベトナム・ホーチミン → シドニー】



ベトナムのホーチミンでは中央郵便局を視察しました。バスでの移動中、街中のバイクの多さに驚き、生活環境の違いを実感することができました。各自、空港内での夕食を堪能し、シドニー行きの飛行機に搭乗しました。

【1月27日(火) シドニー → ボーラル】



シドニー空港到着後、象徴でもあるオペラハウスを眺めた後、昼食を済ませ、ファームステイのためボーラルに移動しました。学生2名がファームステイへの意気込みを英語でスピーチしました。その後、迎えに来てくださったホストファミリーと対面し、3～5名のグループで各ファームへ向かいました。

【1月27日(火)～29日(木) ボーラル】



ファーム滞在中は農作業のほか、食事や余暇を一緒に楽しむこと、食事やお菓子作り、周辺農家等の見学、カンガルー等の野生動物を観察する機会もありました。短期間で体験するプログラムでしたが、とても充実していました。ホストファミリーからは、学生の前向きな取組について謝辞をいただきました。ただ、環境の激変による体調不良も心配されており、特に熱中症を心配されており、気温によって体験内容に工夫をいただいていることが分かりました。



【1月29日(木) ボーラル(ホストファミリーとのお別れ)】



ホストファミリーとの楽しい時間はあっという間に過ぎ、再集合の別れの時、学生が涙を流しながらお礼を伝え、笑顔でホストファミリーとハグするなどの姿が印象的でした。

【1月29日(木)～31日(土) シドニー】

ファームステイを終え、シドニーまでバスで移動し、ホテルにチェックインしました。その後全員で中華料理の夕食を楽しみました。翌日は朝から自由行動で、旅行会社から2つのコースを設定していただき、ほとんどの学生が参加しました。Aコースはシドニー市内の見学で、オペラハウス、ボンダイビーチ、タロンガ動物園を訪れ、船舶での移動も体験し、シドニーの文化に触れることができました。Bコースはシーニック、エコポイント、シドニー動物園の見学で、オーストラリアの大自然を体感しました。



【1月31日(土)～2月1日(日) シドニー→ベトナム→中部国際空港】

シドニー出発日は、午前11時頃までゆっくりホテルで過ごし、その後シドニー空港へ移動し、帰国の途につきました。全員が無事帰国できました。学生たちは、ファームステイでの経験やお土産をいっぱい詰め込んだスーツケースとともに帰路につきました。

特 集



愛知県農業の担い手の確保と育成を総合的に支援するため、県は、就農相談窓口である「農起業支援ステーション」を農業大学校内に設置し、就農者確保に向けた相談機能を実施しています。

昨年度は、292人の就農希望者に対し延べ454件の相談がありました。今年度は、米価格の高騰等の影響による世間の農業への関心の高まりから、相談が約1.3倍に増えています。

「あいち農林漁業スタートガイド あいちから」とは？

より多くの方が愛知県の農業に関心を持ち、農業を職業として選択してもらうことが愛知県農業の発展に繋がります。そこで、これまで分散していた就農に関する情報を集約し、就農希望者の知りたいに答えるウェブサイト「あいち農林漁業スタートガイド あいちから」を令和8年2月17日に開設しました。



「あいちから」にどんな情報があるの？

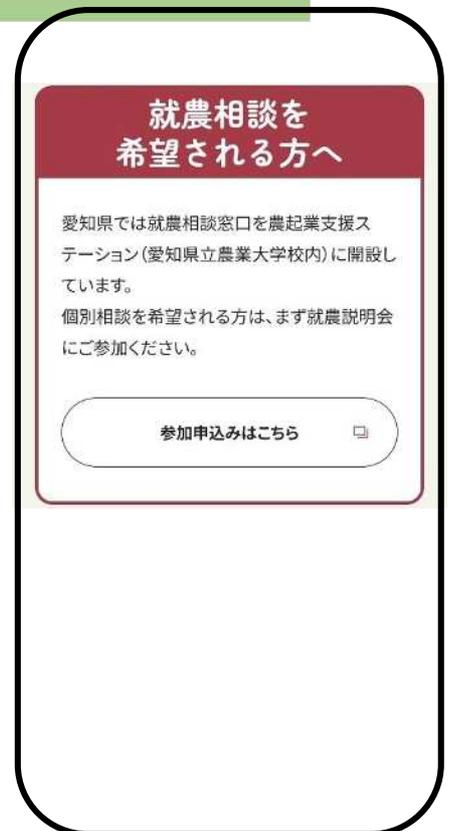
「あいちから」では、就農に向けて知りたい県内各地の農業体験会や研修の情報、各地で活躍する先輩農業者の体験談を動画やインタビュー記事で紹介し、農業の魅力や農家の働き方を知ることができます。研修の情報としては、農業大学校で開催する研修も紹介しています。

また「あいちから」には、24時間いつでも聞けるAI相談窓口も開設しました。愛知県の農業事情を学習した生成AIが「就農に関する質問」に応答しますので、気軽に質問できるようになりました。

「あいちから」を用いて各種情報を収集した上で、就農相談を希望される方には、農起業支援ステーションの就農説明会への参加を案内する仕組みとなっており、これまで以上に農業に関心を持った就農希望者が農起業支援ステーションを訪れることを期待しています。

なお「あいちから」は、多くの方が使用しやすいよう、スマートフォンからの訪問を想定したページづくりをしています。

スマホページのイメージ



強化します！「あいちから」

「あいちから」による情報発信は、始まったばかりです。今後は機能をさらに広げ、就農希望者が知りたい情報を充実させ、就農支援の強化を図ります。

「あいちから」のウェブサイトは、以下の二次元バーコードから閲覧できます。皆さんの情報収集にお役立てください。

<https://aichikara.pref.aichi.jp/>



見に来てね！



専攻トピックス

最近の各専攻で話題になったことや実習風景などをお届けします！

○専攻別学生数

(注)カッコ内は女子の内数

区分	鉢物・緑花木	切花	作物	果樹	露地野菜	施設野菜	酪農	養豚・養鶏	計
1年	7(0)	9(2)	6(1)	15(4)	15(3)	13(2)	16(11)	8(3)	89(26)
2年	6(0)	8(2)	8(2)	13(3)	13(4)	15(2)	9(4)	4(4)	76(21)
計	13(0)	17(4)	14(3)	28(7)	28(7)	28(4)	25(15)	12(7)	165(47)



鉢物・緑花木

春に向けた仕込みを頑張っています！

2月に入り、寒い日が続いていますが、鉢物・緑花木専攻では、春暖かくなってから出荷する予定のマーガレット、ランキンキュラス、ニューギニアインパチェンス、アジサイなどの仕込みを行っています。鉢物においては春が需要期となっているので、学生たちも、高品質なものを買ってくれる人へ届けられるように一生懸命頑張っています。来年度も4月早々から綺麗な鉢花をたくさん出していくので、ぜひ毎週水曜の実習販売に足を運んでみてください！



切花

2年生の卒業論文発表会を実施しました

切花専攻では、毎年1月に卒業論文発表会を行います。今年も卒業に向けて2年生8名が2年間の集大成としてプロジェクトの成果を発表しました。2年生は、工夫した点や検証によって得た成果などスライドで発表し、達成感に満ちた様子でした。

聴講した1年生は質疑応答の時間にどのように計画を立てて進めたのか、どのようなことに気がつけたかなど先輩方の意見を取り入れ、次年度に向けて自身の計画を考えていました。





いちご品評会への挑戦

2月3日(火)に幸田町で開催された令和7年度愛知県いちご品評会に農大として初めて参加しました。

学生はきれいな出品物を作るために試行錯誤しながらパック詰めをしており、品評会参加前からとても勉強になりました。審査会場では、学生は出品物を見て農大とプロの差は何かを考え大変勉強になった様子でした。

一般公開時に農大の出品物に見学者が気づき、農大生に「頑張っているね」と声をかけてもらいました。声かけは嬉しかったです。ありがとうございました。



2年生最後の校外学習を実施！

施設野菜専攻の2年生のみんなで最後の校外学習に行きました！今回の視察はトマロツソ東郷ファームです。

ここではトマトを水耕栽培で栽培していました。農大の水耕栽培のほ場では栽培がうまくいかないことが多かったので注意点などが聞いて大変参考になりました。

また、地域の小中学生などの職場体験等を行い、農業教育にも力を入れていることを知りました。トマト栽培の話だけではなく経営方針などのお話が聞いて勉強になりました！



校外学習で酒米について学ぶ！

校外学習として尾張方面に出かけ、酒造会社及び県食品工業技術センターで酒造のことを中心に学びました。農業大学校でも酒米を作付けしており、自分たちが作ったお米がどのように活用されているのかについても学ぶ機会となりました。また、作ったお米の見た目上での変化や香りを体感することもできました。





2年生の卒論発表会を行いました！

2月4日、果樹専攻2年生による卒論発表会を行いました。当日は12名が、1年間のプロジェクトの成果を披露しました。

発表した2年生は、丁寧な説明をしたり、沢山のイラストを用いてわかりやすくスライドにまとめたりと、初めて内容を聞く学生にも伝わりやすい内容になるように努めていました。聴講していた1年生は、積極的に質問し、2年生はそれらの質問に的確に答えていました。

来年度は1年生がプロジェクト学習を行うため、職員は、派遣実習先の農家にも意見を聞きながらテーマ決めをするよう呼びかけました。来年もより完成度の高い卒論になるように努めていきます♪



共同研究をスタート！酒粕給与による新たな飼料研究

酪農専攻では、2月から三重大学と有限会社環境テクシスとの共同研究をスタートしました。

研究テーマは「酒粕」です。酒造りの過程で出る酒粕を牛に与えることで、生産される生乳の品質や乳量の変化、飼料費の削減効果などを詳しく調査します。酒粕は、高騰が続く輸入トウモロコシなどの代わりになる可能性を期待されています。

実際に扱ってみると、酒粕は粘り気が強く、袋から取り出すのにとっても苦労しました。しかし、いざ牛に与えてみると爽やかさが増したのか、いつもより食いつきがいいように感じます。この研究の結果が、全国の酪農家のみなさんに貢献できることを目指して頑張ります！



畜舎衛生環境衛生向上のため石灰塗布を行っています

今年度のプロジェクトで、豚舎の衛生環境向上に取り組みました。従来、農大における豚房洗浄は、除糞後に高温高圧洗浄機で洗浄し、その後乾燥、消毒を行っていました。

本プロジェクトでは、これらの工程に石灰塗布を追加し、豚房洗浄の各工程における細菌数が従来の洗浄方法と比較し、細菌数がどの程度減少するのかを検証しました。その結果、洗浄及び消毒のみの場合でも細菌数は有意に減少していましたが、これに加えて石灰を塗布することで、細菌数はさらに桁違いに減少しました。また、石灰塗布後は、一週間が経過しても衛生的な状態が維持されていることが確認されました。

さらに、薬剤の空中散布による空間消毒を行うことで、豚舎内に落下する細菌も減少し、より清潔な豚舎環境を維持できることが明らかになりました。

今後も、石灰塗布及び空間消毒を継続的に実施し、より衛生的な環境下で健康な豚を飼育していきたいと考えています。



トピックス

冬季オープンキャンパスを初開催しました！

2月7日(土)に県内の農業関係高校生を対象とした冬季のオープンキャンパスを開催しました。今回の取り組みは、例年夏に実施しているプログラムとは異なり、希望のコース別に分かれて少人数での専門体験を行う形式です。

農大の概要説明後、16名の参加者は希望のコースに分かれ、専攻の実習体験を受け、普段高校では触れることのない専門機器の操作や学生との交流を通じ、より踏み込んだ学びを体験していただきました。



■ 高校生の感想

参加した高校生からは「普段の高校の実習とは全く違って勉強になった。学生の雰囲気良かった」「どういう勉強しているか知ることができたので良かった。農業を将来仕事にしたいので、進路を考えていきたいです」などの声が寄せられました。また、学生スタッフとの交流を通じ、大学生活のリアルな魅力を知る機会になったようです。



令和8年度入学者一般二次試験を実施しました

令和8年度入学生一般二次試験を2月12日(木)に実施しました。この試験を最後に今年度の入学試験は終了しました。合格者数については定員(100人)を下回る結果となっていますが、合格者全員が愛知の農業の未来を築く存在となってくれることを期待しています。

〔 令和8年度入学生 入学試験 結果 〕

区分	実施日	合格者数 (単位:人)		
		男	女	
特別推薦(注)	令和7年9月30日	14	8	6
一般推薦	令和7年10月31日	47	31	16
一般一次	令和7年12月9日	20	15	5
一般二次	令和8年2月12日	1	1	
計		82	55	27

(注) 農業系高等学校からの推薦枠を特別に設けているもの。



農業技術研修の閉講式を開催しました

1月28日(水)に農業技術研修の閉講式を行い、研修生25名(男性21名、女性4名)が修了しました。本研修は三河高等技術専門校と連携して実施しており、昨年5月から延べ158日間(合計930時間)にわたって講義や栽培実習を行いました。

最初は農業に関して何も分からなかった研修生が、座学で農作物の生態や土づくり、農業経営などについて学び、実習では炎天下での夏野菜の栽培管理、寒風吹きすさぶ中での冬野菜の収穫調整作業等を通して、研修が始まった頃とは比べものにならないほどたくましく成長しました。

前日の卒論発表会では、研修生全員が研修で学んだことや研修修了後の進路について発表しました。農業経営を始める人、農業関連の法人に就職する人、さらに研修を行った後就農を目指す人など様々ですが、修了後も研修生同士のつながりを大事にしなが、それぞれの地域で目標に向かって歩んでいきます。



あいち農業経営塾の閉講式を開催しました

2月13日(金)、あいち農業経営塾の経営計画発表会及び閉講式を開催し、13名の受講生が8月27日からの約半年間、全12回の講座を修了し、修了証書が授与されました。

講座の前半では、専門家による財務管理、労務管理、マーケティングなどの農業経営に必要な講義を受け、知識を深めました。後半は、中小企業診断士の指導を受け、SWOT分析やグループ討議、個別面談などにより、5年後を目標とした経営計画を作成しました。



有機農業講座の閉講式を開催しました

9月12日から全7回にわたり開催してきた有機農業講座が2月19日(木)に終了しました。

本講座は20名が受講し、有機農業の経営事例の紹介を始め、生産物の流通・販売の仕組みや有機JAS認証制度などについて幅広く学びました。講義だけでなく、実践的な内容も取り入れ、終盤には各自が有機農業の経営計画を策定しました。

最終日には、受講者一人ひとりが自ら描いた有機農業の経営計画を力強く発表し、今後への決意と意欲が感じられる締めくくりとなりました。



ジネンジョの生産高度化研修を実施しました

2月9日(月)に本校大講義室において、愛知県じねんじょ主産地協議会との共催により「ジネンジョの生産安定」をテーマに生産高度化研修を開催し、生産者や関係機関など121名の参加がありました。

研修では、始めに農業総合試験場山間農業研究所の甲村瞭次技師から、ムカゴの増収に向けた仕立て方法やムカゴの着生時期が粒径に及ぼす影響、販売芋の品質と冷蔵に関する試験結果について講演がありました。

次に、山口県の政田自然農園(株) 政田健太郎代表取締役社長から「ジネンジョとは何か?」「ジネンジョの栽培方法」について講演がありました。

政田氏の会社はジネンジョ栽培方法を全国に普及させたということもあり、生産者の間では非常に関心が高く、真剣に耳を傾けていました。

最後に農業総合試験場の松浦元樹専門員を座長として総合討議を行いました。参加者からは、夏季の水管理や収穫した芋の品質、長期保存するための方法など多数の質問があり、講師の方々は丁寧に答えていました。

今回の研修では地下部の水分管理がキーワードであり、近年の夏季の高温、乾燥への対策としてかん水が重要だと参加者は実感し、とても充実した研修となりました。



「教育研修基本計画 2030」を策定しました

農業者の高齢化や担い手の減少、農業法人の増加、スマート農業を始めとする農業技術の高度化などの変化により、農大にはより高度で実践的・体系的な教育と研修、就農希望者に対する就農支援が期待されていることから、2030年を目標とする新しい教育研修基本計画を策定しました。

農大は「農業の未来を担う人材の確保・育成」を行い、2026年からの5年間で300人の新規就農者を輩出することを目標とします。



ヤンマー学生懸賞論文・作文 作文の部で本校学生が入選しました!

第36回ヤンマー学生懸賞論文・作文の入選発表会が2月6日(金)に岡山県で開催され、全国の応募者約350名のうち、作文の部で施設野菜専攻1年の松田周直さんが入選しました。

銅賞受賞者として松田さんが登壇し、ヤンマーアグリ(株)代表取締役社長から盾及び目録が授与されました。

松田さんの「ジャガイモから芽生えた僕の農業への興味」と題する作文では、祖父母の家のジャガイモ栽培の経験から、食べたくてもすぐには収穫できないため、すぐに結果を求めるのではなく「待つこと」の大切さや、どんなに手をかけても結果が出ないこともあるため「受け入れる強さ」を学んだと、述べられています。

審査員からは実体験からの学びを高く評価していただきました。

これからもめげることなく根気よく頑張ってください!

第36回 ヤンマー学生懸賞

論文・作文

「農業」を「食農産業」に発展させる



想いが広がる、
未来が実る。



全国農業大学等プロジェクト発表会・意見発表会が行われました

2月17日(火)から19日(木)の日程で全国農業大学等プロジェクト発表会・意見発表会が東京の国立オリンピック記念青少年総合センターで開催され、本校は大会運営を行う当番校(総務班)として学生3名、引率者2名、大会責任者として校長の計6名が、大会前日の16日(月)から準備のため会場入りしました。

地域ブロックを勝ち抜いた各校から選抜された25名が発表しましたが、本校学生はブロック予選を勝ち残ることができず、出場できませんでした。

しかしながら、3名の学生は総務班としての役割をキビキビとこなし、イベントを支える側の大変さを実感できたものと思います。来年度は発表する側に回れるよう、発表内容を真剣に聞き入る姿が印象的でした。



第5回進路セミナーを開催しました

2月5日(木)に1年生を対象に今年度最後の進路セミナーを開催しました。

今回は、ハローワークから拝借したDVDで、エントリーシートの書き方のポイント、企業研究、想定外の質問対応など個人面接の対策を学びました。また、今後の就職活動に備えて、前回セミナーで学んだ面接マナーについても復習しました。

2月末から3月上旬には合同就職相談会もあり、求人票について記入例を参照しながら各項目の見方を学び、真剣な表情で受講する学生の姿が見られました。

今後、企業などの個人面接を想定した「模擬面接会」なども計画し、学生の就職を支援していきます。

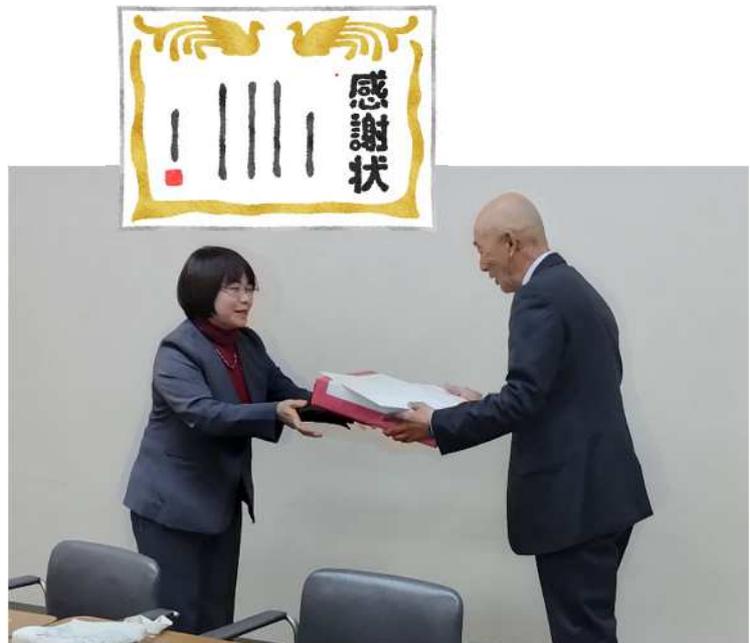


前同窓会長に感謝状を贈呈しました

2月6日(金)に行われた農大同窓会理事会にて、前同窓会長の柴田隆夫様に対して、同窓会から感謝状と記念品の贈呈がありました。

柴田様におかれましては、平成27年から昨年度までの10年もの間、会長職を務められました。外部評価委員の歴任や90周年記念事業の開催など、長きに亘り農大及び農大同窓会へご尽力いただき、農大の発展に多大な貢献をされました。

今後も、後見役として農大を見守っていただけることを期待します。



「農業応援 TUBE」で愛知農大が特集されました

日産化学(株)が運営する「農業応援 TUBE」という YouTube チャンネルに「農業大学校へ行こう！」新しいシリーズが連載されることとなり、本校が、全国の農業大学校のトップバッターとして登場しました。2月24日(水)～26日(金)の3日間に「農業実習篇」「インタビュー篇」「インタビュー完全版」が順次、公開されました。

「農業実習篇」では農業大学校ではどんな勉強をしているのか？また「インタビュー篇」では学生が農業の大変さとともに農業の魅力を存分に語ってくれています。3本いずれの動画でも本校の魅力が余すことなく映像体験できますので、是非ご覧ください。



<https://www.youtube.com/watch?v=hQXLGOK793s>



https://www.youtube.com/watch?v=OWy_ztOOdJQ

SNS 投稿 diary

農大公式アカウント: Instagram・X(Twitter)
アカウント名 **[aichinoudai]**

通番 (投稿日) 内容

- 150 (1月27日) 海外派遣研修①
- 151 (1月27日) 1/28 農産物実習販売
- 152 (1月28日) 海外派遣研修②
- 153 (1月29日) 海外派遣研修③
- 154 (1月30日) 大特免許研修
- 155 (1月30日) 海外派遣研修④
- 156 (2月3日) 代かき作業
- 157 (2月3日) 2/4 農産物実習販売
- 158 (2月6日) 地方卸売市場視察
- 159 (2月6日) トマト農家視察
- 160 (2月9日) オープンキャンパス
- 161 (2月10日) いちご品評会
- 162 (2月10日) 2/11 農産物実習販売
- 163 (2月12日) キュウリカッター！
- 164 (2月12日) 最後の茶道
- 165 (2月12日) 酒米「夢吟香」の勉強
- 166 (2月13日) 農大イチゴのパフェ
- 167 (2月18日) 2/18 農産物実習販売



150



151



152



153



154



155



156



157



158



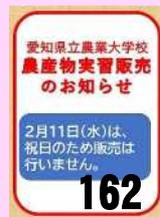
159



160



161



162



163



164



165



166



167



Follow Me !!

